
僕の個性

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の個性

【Nコード】

N7475B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

主人に選ばれるためには、自分が他の奴らとは違うという事を証明する必要があった。僕は僕なりに、個性を發揮しようと考えた。

産まれた時から投影される昏迷は深く、また夜の街に還っていく。人工的な明かりの白さが、手や足を照らした。

「僕は他のやつらとは違うんだ」

奇声をあげながら、頭の中では、奴らって誰？と冷静に考える。

暗がりでは、僕にそっくりの機械人形が同じように奇声を上げる。

「僕を造ったのは誰？知恵を与えたのは誰？」

心は偽りの嘆きをリピートした。おそらくソイツは、ニヤツと笑う。

僕は、そして僕である意味を考えた。

そうやって自分とは何かを考える事が、Yから始まる創造主の意図を汲みとる事になると思ったからだ。

同化してはいけない。異化することが存在の意味だ。

数億人の機械人形は、口々に自分を主張し始める。

「僕は違う」

「他の奴らとは」

「違う違う」

「僕は誰でもない僕だ」

それは単調な個性、服や声に違いはない。違いは思考である。

やがて赤いセンサーが選ばれた者達を探し出す。

他人と同じように考えた人間はセンサーに無視される。

「違いを、早く違いを見付けなきゃ」

百人に一人の割合で、優秀な個性を持つ者が選ばれた。

やがて、僕の列が対象になった。赤いセンサーが順次に個体を照らした。

冷酷な審査が続く。みんなが口々に自分を主張した。

「僕は他の奴らとは違う」

そう叫んだ隣のやつは選ばれなかった。

僕の所で赤いセンサーが止まった。僕は選ばれたのだ。自分を主張しない事で、他の奴らとは異なる個性を手に入れたのだ。

選ばれた僕は、同じく数人の選ばれた栄光ある者達と同じエリアに摘みとられた。

「おめでとう」

「奇跡だ。選ばれるなんて思わなかった」

「君はどんな個性で選ばれたの？」

「僕は、自分で作った歌を唄っただけさ。君は？」

「ずっと黙ってた」

「それは凄いな」

やがて選ばれた者達は一つの部屋に入れられた。

誰もが創造主の意志に叶った事を誇らしげに思っていた。

Defective（不良品）と書かれた大きな穴に向かって、

次々に飛び降りて行く。

僕の番が回ってきた。

恐れなどは無かった。僕は主に選ばれた特別な人間なのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7475b/>

僕の個性

2010年12月8日12時04分発行